

## 研修会報告

令和元年 7 月 8 日

文責：生理検査部門 佐藤 貴光

研修会テーマ「腹部エコースーパーライブレクチャー ～肝胆膵編～」

開催日時 令和元年 6 月 29 日（土）14：10 ～17：00

会場 仙台市立病院 3 階講堂

- ・「最新エコー装置のご紹介」キヤノンメディカルシステムズ株式会社
- ・講演 1「精度管理フォローアップ講座～腹部超音波領域～」  
講師：仙台厚生病院 臨床検査センター 石田 啓介 技師
- ・講演 2「腹部エコースーパーライブレクチャー ～肝胆膵の走査と評価のポイント～」  
講師：東北労災病院 超音波診断室 山下 安夫 技師

生涯教育点数：専門 20 点

参加者：会員 80 名 非会員 18 名 賛助会員 1 名 計 99 名

内容

今回は肝胆膵の走査について、ライブレクチャーで学べる研修会を企画した。また、平成 30 年度の精度管理（腹部超音波領域）の出題意図と考え方を改めて解説する機会を設けた。

はじめにキヤノンメディカルシステムズ株式会社より、超音波診断装置をご紹介いただいた。最新のプローブや信号処理技術による高精細な画質、SMI や SWE といった技術について知見を得る良い機会であった。

講演 1 では、腹部超音波領域の精度管理についてご講演いただいた。各設問に関連する症例を再掲示しながら、超音波所見のみならず病態や疫学についても解説していただいた。各疾患の考え方を再確認できる良い機会であったと考える。来年度以降も適宜フォローアップを行い、より有意義な精度管理としたい。

講演 2 では、日常検査の基本となる肝胆膵の走査について、スペシャリストのテクニックを実際にみて学べる講演であった。解剖や死角となりやすい部位の走査法からはじまり、肝腫瘍や胆嚢隆起性病変について非常に多くの症例を交えながら解説していただいた。特に膵については呼吸調整、圧迫、体位変換、走査位置など多くのテクニックを駆使しながらの描出法を学ぶことができた。いずれの臓器においても、適切なプローブ選択と視野深度の調整、十分な拡大が必要不可欠であるとのことであった。日常検査に直結する知識、技術をライブで学ぶことができ、多くの参加者にとって有意義な内容であったと考える。

貴重なライブレクチャーの研修会という事もあり、約 100 名と多くの会員に参加いただいた。今後も宮城県臨床検査技師会会員にとって価値ある研修会を開催していきたい。